おひざのうえで 2025⑥

（副園長の子育て応援 Letter）

「 あけましておめでとうございます 」

せんりひじり幼稚園　副園長　安達かえで

あけましておめでとうございます。

今年は午（うま）年ですね。昨年話題になったドラマ『ロイヤルファミリー』の影響で馬ファンが急増しているようですが、私もその一人。画面越しに伝わる馬の美しいフォルムや、駆け抜ける躍動感にすっかり魅了され、「いつか、駆け抜ける姿を目の前で観たい」と思うようになりました。

動物行動学の研究によると、馬は群れで生活するため、仲間や人の感情を読み取る能力に長けているそうです。人の表情や声のトーンに合わせて心拍数まで変化するそうで、その繊細さや賢さを知ってますます好きになりました。以前、観光地で乗馬体験をしたことがありますが、その時はこわごわ乗るのが精一杯……。このことを知っていれば、もっと目を見て語りかけたりなでたりしたかったなあと、少し悔やまれます。

「馬」といえば、子育て中に忘れられない思い出があります。毎晩子どもたちに絵本を読んでいた頃、息子が一冊だけ私が読むのを嫌がった本があります。それは、モンゴルの民話『スーホの白い馬』です。なぜ、息子が嫌がったかというと、「ママ、いつもこの本読んだら泣くから。」だそうです。そうなんです。泣かずにはいられない絆のお話です。

どの様な話かというと、モンゴルの大草原で、羊飼いの少年スーホは白い子馬を拾い、毎日愛情を注いで育てました。白馬は驚くほど立派に成長し、二人は深い絆で結ばれます。ある時、領主が、「競馬大会で一等になった者を娘の婿にする」お触れを出してスーホは見事に優勝しますが、スーホが貧しい身なりだったためその場を追い出され、力づくで白馬を奪われてしまいます。白馬は暴れて領主を振り落とし、スーホの元に帰ろうとしますが、次々と矢が放たれ背中に深く突き刺さります。それでも白馬はスーホが待つ家へと走り続け、ようやく帰り着いたその翌日、スーホの腕の中で息を引き取ります。悲しみに暮れるスーホの夢に白馬が現れ、「私の体で楽器を作ってください。そうすれば、いつまでもあなたのそばにいられます」と告げました。そうして作られたのが「馬頭琴（ばとうきん）」。スーホがこの楽器を弾くと、その音色は、草原に響き渡り、聞く人の心を揺さぶりました。まるで、白馬がそばにいてスーホを慰めているようでした。

スーホと白い馬の絆が素晴らしくていいお話なので、「今日は泣かないから読ませて」と言って何度も読んで聞かせましたが、決まって最後は泣いてしまう「ママが泣いちゃう絵本」でした。ホントごめんなさい。

そんなアナログな温かさを思い出す一方で、冬休み中は最新技術である「AI と保育」の研修会に参加してきました。AI の進化は目覚ましく、文章の要約や分類といった作業では、人間には真似できないスピードと正確さに驚かされます。「オープン AI」や「Gemini」などを自分仕様にカスタマイズして、事務作業の軽減に役立てたいと強く感じました。

早速、年末は、今月せんりひじり幼稚園に見学に来られるシンガポールの政府機関のために、説明レジメを英語版にするのに、Gemini と Canvas を往復しながら作成し、オシャレなレジメが出来上がりました。（助かった）

しかし、同時にこんな風に考えます。
学期末の振り返り会議。学期末ごとに、今話し合いたいテーマを決めて、グループに分かれて話し合います。例えば、園庭の遊具拡大の提案や、子どもたちの造形活動などついて話し合い、そこで上がった意見をまとめて発表し、次の一手をみんなで模索するのですが、もしかしたら AI に聞けば瞬時に「効率的な正解」や提案やさらに細やかな答えを出してくるかもしれません。でも、目の前の子どもの表情を思い浮かべ、会話や反応をイメージしながら、何が最適かどこに向かうかを肌感的に感じながら「あーでもない」「こーでもない」と模索していくところに大きな意味があり、そのプロセスで、子どもへの想いや、活動の面白さをイメージしながら追求していくところが保育のエネルギーになっていきます。そこはあえて AI に答えを求めたくない領域でもあります。

AI が自ら進化する「シンギュラリティ」の時代が来たら、何が本物かわからなくなる不安もあります。実際、この右の写真は Gemini に私の写真を読み込ませ、「朝日を浴びて馬に乗っている画像」と指示してわずか 30 秒で作られたものです。どこでフェイク画像だと見破ればいいのでしょうか。便利さと不安が入り混じる時代だからこそ、本物を見極める力や、私たち人間にしかできない「感性」や「心の重なり合い」を大切にしたいと、強く思う年末年始でした。

さて、3 学期も様々な行事が待っています。AI には真似できない子どもたちのユニークな発想や行動に大いに笑わせてもらいながら、愛のある幸せな時間を共に作り上げていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。